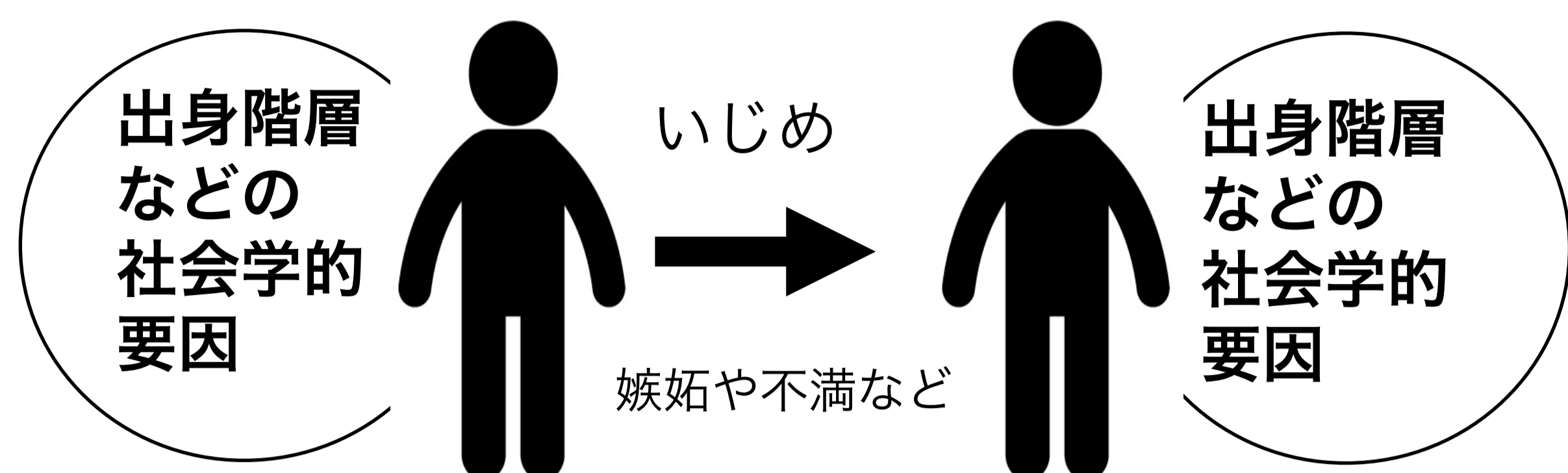


研究の背景と目的

- 本研究のRQ
「誰がいじめ、誰がいじめられるのか」
「加害者被害者は何をいじめと捉えるのか」



なぜ出身階層によっていじめが規定されるのかを、被害・加害両者の出身階層から明らかに

調査概要

- データ
 - ・調査タイトル
「学校におけるいじめと家庭環境に関するウェブ調査」
 - ・実施会社
NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社
 - ・実施時期
2020年9月16日～23日
 - ・実施方法
調査会社のモニターがWeb上で回答
 - ・倫理承認
実施にあたり、東北大学大学院文学研究科調査・実験倫理委員会より承認を受けました。
 - ・回収にあたっては、回答時間なども考慮

調査項目

- いじめ被害加害経験による割り付け
「あなたは以下の経験がありますか」
→いじめの加害経験
いじめの被害経験
がある
の両方をたずね、それぞれ割り当て
—加害経験あり 303サンプル なし 302サンプル
—被害経験あり 319サンプル なし 315サンプル
計1239サンプルを回収

*ただし、上記のようなたずね方のため、実際は、
—加害経験あり、被害経験あり 232サンプル
—加害経験あり、被害経験なし 100サンプル
—加害経験なし、被害経験あり 290サンプル
—加害経験なし、被害経験なし 617サンプル

- いじめの内容
「仲間外れにされた」、「からかわれた」、「脅された」、「叩かれたり押されたりした」、「ものをとられたり壊されたりした」、「意地の悪い噂を流された」
- いじめの頻度
まったく／年に数回／月に1回／週に1回
- いじめの相手
年下／同年／年上／他校の生徒
- いじめの状況
学校／習い事／ソーシャルメディア／その他
- その他の変数
・性別 ・年齢 ・居住地 ・職業 ・未既婚
・15歳時の居住地、家庭環境
・両親の学歴 ・両親の働き方 ・両親の仕事内容

加害経験・被害経験割合と属性

	男性		女性		合計
	度数	%	度数	%	
加害経験あり	103	31.1%	228	68.9%	331
加害経験なし	306	35.1%	565	64.9%	871
被害経験あり	178	34.4%	340	65.6%	518
被害経験なし	261	36.6%	453	63.4%	714

※%は列で計算

	要因	オッズ比	信頼区間		p値
			下限	上限	
加害	男性 (ref.女性)	0.76	0.58	0.99	0.05
	大卒以上 (ref.高卒以下)	0.96	0.72	1.26	0.78
	専門管理 (ref.それ以外)	0.85	0.62	1.16	0.33
	マニュアル (ref.それ以外)	0.98	0.69	1.40	0.93
被害	男性 (ref.女性)	0.91	0.72	1.15	0.43
	大卒以上 (ref.高卒以下)	1.05	0.82	1.35	0.70
	専門管理 (ref.それ以外)	0.74	0.56	0.99	0.05
	マニュアル (ref.それ以外)	1.25	0.90	1.74	0.21

いじめの内容とその頻度

	まったく又はほとんどない	年に数回	月に数回	週に1回以上	全体
仲間外れにした	385	141	49	30	605
からかった	336	122	93	54	605
おどした	541	38	14	12	605
物を取ったり、壊したりした	542	39	21	3	605
たたいたり、押ししたりした	515	48	33	9	605
意地の悪い噂を流した	484	72	32	17	605

	まったく又はほとんどない	年に数回	月に数回	週に1回以上	全体
仲間外れにされた	371	129	51	83	634
からかわれた	278	152	84	120	634
おどされた	519	54	33	28	634
自分の物を取られたり、壊されたりした	499	64	48	23	634
たたかれたり、押しされたりした	497	55	50	32	634
意地の悪い噂を流された	400	98	71	65	634

まとめと考察

- まとめ
 - ・いじめ加害経験および被害経験のどちらかがあるサンプルのうち約3割は両方を経験している
 - ・加害
 - 女性に対して男性の方が10%水準でいじめにくく、オッズ比をみると0.76倍いじめられにくい。
 - しかし、親学歴や親職業は効果が確認できなかった
 - ・被害
 - 親職業において、事務販売やマニュアル職に対して専門管理の方が10%水準でいじめられにくく、オッズ比をみると0.74倍いじめにくい
 - しかし、性別や親職業では効果が確認できなかった
 - ・いじめの頻度に関しては仲間はずれやからかいといったものは半数の人が経験していた

- 今後の課題
 - ・社会経済的地位といじめ加害／被害の関連を検討
→疫学の研究を用いて分析
 - ・対応分析にていじめの内容とその頻度をいじめ経験の有無で分析
→何をいじめとして捉えているのか、について詳細な分析が可能に